

2023 年度

# 事業報告

2023 年 4 月 1 日から

2024 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会

## はじめに

WCRP 日本委員会は、混迷する世界において、宗教者として平和の実現を目指し、国内外で人々が抱える諸問題に積極的に取り組むため、諸宗教間のネットワークや各界との協力を通じて、2023年度の事業を実施した。

「慈しみの実践: 共通の未来のために——つながりあういのち」の総合テーマのもと、(1) ネットワーク化、(2) 啓発・提言活動、(3) 平和教育・倫理教育、(4) 人道的貢献を行動指針として事業を展開してきた。第10回 WCRP 世界大会の「リンダウ宣言」をもとに策定された行動計画に基づきながら、第9回 ACRP 大会で採択された「東京宣言」、WCRP 創設50周年記念事業で掲げた「アジェンダ2030」の実行及び、広島で開催されたG7サミットに向けた WCRP の会合を始め、ロシア・ウクライナ問題やイスラエル・パレスチナ問題等世界的な武力紛争への対応として、第2回東京平和円卓会議を開催するとともに、日中韓の宗教者が一堂に会する IPCR 国際セミナーの受け入れを行った。

その他、WCRP 日本委員会では、5つの特別事業部門（タスクフォース）①ストップ！核依存、②気候危機、③和解の教育、④人身取引防止、⑤災害対応を実施し、平和に関する国内外の諸課題についての学びを深め、そのメッセージを幅広く発信した。

## I. 事業部門

### A. 諸宗教間の対話と協力を通じた平和のための活動と研究を推進する事業

(公1)

#### 事業の趣旨（目的）

諸宗教間の対話により相互理解を深めるとともに、諸宗教間による協力・協働を基盤として、宗教者のみならず、不特定多数の人々に対して、平和を脅かす諸課題の解決のための活動を普及し、宗教の叡智に基づく平和構築のための啓発・提言活動を行うことにより、異文化間または国際的な相互理解の促進、世界平和の確立、より良い社会の形成、豊かな人間性の涵養並びに文化の向上に寄与し、ひいては世界の平和のために貢献する。

#### 1. 諸宗教間対話・ネットワークを通じた宗教協力

##### (1) 諸宗教間対話・ネットワーク

全事業を通じて、仏教、神道、キリスト教、教派神道、新宗教団体、イスラーム、ヒンドゥー等をはじめとする宗教・宗派間の対話を促進し、平和のために協力するネットワークを構築した。

2023年度の事業は以下の通り。

##### ① 諸宗教平和円卓会議（第2回東京平和円卓会議）

期 日：2024年2月18日～21日

場 所：東京都内

概 要：

WCRP/RfP国際委員会とWCRP日本委員会、国連文明の同盟の共催で、「『戦争を超え、和解へ』諸宗教平和円卓会議」第2回東京平和円卓会議を開催。各国の諸宗教評議会の代表者、ロシア、ウクライナ、イスラエルやパレスチナを含む紛争地域の宗教指導者や政府関係者、政治家ら16カ国から約100人が参加した（オンライン参加者含む）。この第2回東京平和円卓会議は、2022年に開かれた第1回東京平和円卓会議の「宗教者が平和構築の架け橋になること」、「戦争で引き裂かれたコミュニティを癒していく責任があること」、「宗教者間の協力を促進するために対話を継続すること」を謳った声明文に基づいて開催された、紛争状況にある両陣営の正式な宗教代表も出席した。本会議は、全体会議やグループ討議、宗教施設訪問や文化体験、国会議員との意見交換会など多様なアプローチの和解プログラムを実施することで参加者間の信頼構築を図り、最終日には暴力や紛争に対する宗教者の使命と役割を謳った声明文を採択した。内容は、機関誌「WCRP」2024年3月号に掲載。

##### ② G7広島サミットに向けた『宗教者による祈りとシンポジウム』

期 日：2023年5月10日

場 所：カトリック幟町教会・世界平和記念聖堂（広島県広島市）／オンライン配信

概 要：

広島市内で5月19日から21日まで開催された主要7カ国首脳会議（G7広島サミット）を前に、平和な世界に向けて祈り、宗教者の役割と行動を再確認し、メッセージを発信するために開催された。会場には約200人が集まり、オンライン配信を通じて11カ国から約300人が参加した。第1部では、浄土真宗門徒・森重明氏の被爆証言と諸宗教者による平和に向けた祈りを行った。第2部ではシンポジウムが行われ、最後に、G7広島サミットに向けた提言「G7広島サミットに向けた宗教者提言～『ヒロシマの心』が導く持続可能な平和をめざして～」が採択された。

5月15日には、戸松義晴理事長（浄土宗心光院住職）らが首相官邸を訪れ、岸田文雄首相と面会し、採択された提言書を直接手渡した。内容は、機関誌「WCRP」6月号に掲載。

さらに、広島で開催されたG7広島サミットを受けて、声明文「G7広島サミットを振り返って」を9月13日に発表し、10月12日には、戸松義晴理事長が高村正大・外務大臣政務官に声明文を手渡した。内容は、機関誌「WCRP」10・11月号に掲載。

### ③ アジア宗教者平和会議（ACRP）の活動への参画

#### ・ACRP 執行委員会への参画

5月23日～25日にACRP執行委員会がフィリピンのミンダナオ島ダバオ市とオンラインで開催され、日本委員会からACRP執行委員が参加した。執行委員会では2022年度の事業・決算報告、2023年度の事業・予算計画が決定され、第9回ACRP大会（2021年開催）で採択された東京宣言を実行するためのフラッグシップ・プロジェクトが策定された。内容は、機関誌「WCRP」6月号に掲載。

また、12月4日、ACRP執行委員会をオンラインで開催し、2026年に第10回ACRP大会を開催することが議決された。内容は、機関誌「WCRP」12月号に掲載。

#### ・ACRP 各国事務総長会議への参画

7月27日に各国事務総長会議がオンラインで開催され、日本委員会から事務局長らが参加した。ACRPでは、各国委員会の現状と課題を共有し、より行動指向のACRPネットワークをめざすために、3カ月に1度の頻度で各国事務総長会議を開催している。内容は、機関誌「WCRP」6月号に掲載。

### ④ 韓国宗教平和国際事業団（IPCR）国際セミナー

日本・韓国・中国の宗教者・学者が集まり『東北アジア平和共同体構築のための課題』をテーマとするセミナーが開催された。概要は、下記「3. セミナー・スタディーツアー」の通り。

### (2) ミャンマー支援

2021年2月の暴力的な政変によって多くのミャンマー市民が犠牲になったが、それに対してWCRP日本委員会はミャンマー支援募金を実施し、WCRPミャンマー委員会が行うミャンマー国内の脆弱な人々を支援するための事業、ヘルスサポート事業に対して財的支援を継続して行った。内容は、機関誌「WCRP」8月号に掲載。

### (3) ウクライナ情勢関連

2024年2月に第2回東京平和円卓会議を開催（上記1.（1）①諸宗教平和円卓会議

(第2回東京平和円卓会議)で詳述)した。また、2023年1月と4月に財的支援を行なったウクライナ国内の Eleos Ukraine (エレオス・ウクレイン) と Mudra Sprava (ムドラ・スプラヴァ) の2団体より最終報告書が届いた。内容は、機関誌「WCRP」12月号に掲載。

#### (4) トルコ・シリア大地震への支援

2023年2月6日のトルコ南部で発生した大地震を受けて、WCRP 日本委員会は、緊急支援募金の呼びかけを行うとともに、シリア国内で支援活動を行う2つの市民団体に支援金の緊急拠出を行った。被災状況が明らかになりつつあった5月に、現地で支援活動を行う国内外のNGO 6団体に対して支援金拠出を行い(第1期支援)、9月にオンライン学習会を開催した。その後、現地調査隊を派遣、この報告を受け3団体への支援拠出を行った(第2期支援)。内容は、機関誌「WCRP」4・5・7・9・10・11・12・2024年4月号に掲載。

##### ① 第1期支援

Önder Organization for Cooperation and Development (オンダー協力開発機構)、東京ジャーミイ・ディヤーナトルコ文化センター、認定NPO 法人難民を助ける会、認定NPO 法人パルシック、シリア地震被災者支援キャンペーン「サダーカ・イニシアチブ」、特定非営利活動法人 Stand with Syria Japan の6団体へ支援を行なった。

##### ② 緊急学習会

9月9日、『2023年トルコ・シリア大地震——支援の現状と課題、そしてこれから』をテーマにオンライン学習会を開催、60人が参加した。学習会では、日本委員会が支援を行なった団体から、「オンダー協力開発機構」のプログラム・マネージャーを務めるナジブ・ダダム氏、「難民を助ける会」のトルコ駐在代表を務める景平義文氏、「パルシック」トルコ事務所代表の大野木雄樹氏の3氏からの報告のあと意見交換が行われた。

##### ③ 現地調査

災害対応タスクフォースは、現地調査隊を10月23日から29日まで、トルコ南部に派遣した。ガジアンテプを拠点に、カフラマンマラシュ県、ハタイ県などを視察。メンバーは、山越教雄(隊長:日本委員会事務次長)、舘野庸子(災害対応タスクフォースメンバー/解脱会青年本部事務局次長)、村山浩代(日本委員会スタッフ)の3人。

##### ④ 第2期支援

認定NPO 法人パルシック、SAHA(市民社会活動ネットワーク)、Kids Rainbowの3団体へ支援を行なった。

#### (5) 「災害」への取り組み

##### ① 能登半島復興支援

2024年元日に発生した、能登半島地震に対して、緊急支援として認定NPO 法人ゆめ風基金に100万円の支援を行うとともに、支援金の勧募を始めた。内容は、機関誌「WCRP」2024年1月号に掲載。

- ② 災害対応タスクフォース会合を5回開催し、事業〈上記(1)①、(2)(3)(4)〉に関する協議を行った。

## 2. 講座

平和を脅かす諸課題について、宗教団体のみならず、不特定多数の人々がより深い理解を得るため、以下の講座を開催した。機関誌やホームページを通じて広報するとともに、その内容を掲載した。

### (1) 平和大学講座

期 日：2024年3月14日

場 所：浄土宗宗務庁（京都府京都市）・オンライン

概 要：

『諸宗教における人間性の教育を語る—他者の痛みへの共感を育むために』をテーマに開催し、宗教者、研究者、一般市民ら約80人が参加した。戸松義晴理事長の開会あいさつのあと、清泉女子大学の岡野治子名誉教授が『《キリストの平和 Pax Christi》非暴力の平和メッセージ—どのように日本社会に伝えられるか?—』と題して基調発題に立った。パネルディスカッションでは、平和研究所の金子昭所員（天理大学おやさと研究所教授）をコーディネーターに、森伸生所員（拓殖大学イスラーム研究所所長）、特別会員の和田恵久巳氏（立正佼成会総務部長）、藤本頼生所員（國學院大學教授）がパネリストとして登壇した。最後に、平和研究所の竹村牧男所長（東洋大学名誉教授）が閉会あいさつを述べた。内容は、機関誌「WCRP」2024年4月号に掲載。

### (2) 新春学習会

期 日：2024年1月25日

場 所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）／オンライン

概 要：

『人道危機において、国際機関が宗教者に期待すること』をテーマに約150人の宗教者、市民らが参加した。学習会では、戸松義晴理事長の開会あいさつのあと、2023年2月に起きたトルコ・シリア地震の現地調査に参加した災害対応タスクフォースの舘野庸子メンバー（解脱会青年本部事務局次長）が報告を行った。続いて、榛澤祥子氏（赤十字国際委員会＝ICRC＝駐日代表）と伊藤礼樹氏（国連難民高等弁務官事務所＝UNHCR＝駐日代表）が基調講演を行った。その後、山本俊正理事（元関西学院大学教授）をコーディネーターにパネルディスカッションが行われ、黒住宗道理事（黒住教教主）、女性部会の本多端子委員（全日本仏教婦人連盟理事）、大西英玄理事（北法相宗音羽山清水寺成就院住職）がパネリストを務めた。最後に、武藤謙一理事（日本聖公会首座主教）が閉会あいさつを述べた。内容は、機関誌「WCRP」2024年2月号に掲載。

## 3. セミナー・スタディーツアー

宗教団体の指導者及び実務担当者をはじめ会員・関係者や関心をもつ人々が、平和構築に寄与するため、様々な宗教や異なる文化に対する理解や、国際社会の中で直面する諸問題への理解を深めることを目的として、以下のセミナーやスタディーツアーを実施した。

(1) 韓国宗教平和国際事業団 (IPCR) 国際セミナー

期 日：2023年12月7日

場 所：立正佼成会神戸教会（兵庫県神戸市）

概 要：

2009年から日本・韓国・中国の宗教者・学者が集まり「東北アジアにおける平和共同体構築のための共通基盤を求めて」を基本テーマに行われているセミナーで、2023年度は『東北アジア平和共同体構築のための課題』を総合テーマに日本で開催した。コロナ禍以降はじめて3か国が対面で集まることとなった本セミナーには、日本、中国、韓国の宗教者、学者ら61人が参加した。神戸での開催に際し、被災地NGO協働センター顧問の村井雅清氏が、『自然災害における宗教者への期待』と題し、基調講演を行った。その後、日中韓それぞれの国から発題者が登壇する3つのセッションが行われた。内容は、機関誌「WCRP」2024年1月号に掲載。

#### 4. 平和のための啓発・提言活動

(1) 核兵器廃絶・軍縮に向けた取り組み

ストップ！核依存タスクフォースを中心に核兵器廃絶・軍縮に向けた取り組みを行った。

① 核兵器禁止条約 (TPNW) 第2回締約国会議への参加

期 日：2023年11月27日～12月1日

場 所：国連本部（米国・ニューヨーク）

概 要：

会議には、条約に署名・批准する59の国と地域のほか、35カ国がオブザーバーとして出席した。WCRP日本委員会から神谷昌道氏（ストップ！核依存タスクフォースメンバー、ACRPシニアアドバイザー）が参加した。世界の100を超えるNGO組織から700名以上の市民社会代表が会議に集った。これら市民社会の代表者たちは、締約国会議に並行する形で、65におよぶサイドイベントを実施した。WCRP国際委員会も「持続可能な平和・正義そして開発のためのTPNW普遍化における宗教者とICANの戦略的パートナーシップについて」をテーマにパネル討論会を実施し、神谷氏はパネリストの一人として発題した。内容は、機関誌「WCRP」2024年1月号に掲載。

② G7広島サミットに向けた『宗教者による祈りとシンポジウム』開催  
（上記の1（1）②参照）。内容は、機関誌「WCRP」6月号に掲載。

③ 『核時代における非戦』公開連続講座

日本パグウォッシュ会議、明治学院大学国際平和研究所 (PRIME)、WCRP日本委員会の三者が共催し連続講座を開催している。

・第1回

期 日：2023年8月28日 場 所：オンライン

講 演：矢ヶ崎克馬氏（琉球大学名誉教授）

テーマ：『劣化ウラン弾はなぜ使われてはならないのか：その仕組みと非人道性を知る』

内容は、機関誌「WCRP」9月号に掲載。

・第2回

期 日：2023年10月14日 場 所：オンライン

講 演：梅林宏道氏（ピースデポ特別顧問）

テーマ：『朝鮮半島の核危機をとらえなおす：日本の担うべき役割は何か』

内容は、機関誌「WCRP」11月号に掲載。

・第3回

期 日：2024年1月11日 場 所：オンライン

講 演：半田滋氏（防衛ジャーナリスト、元東京新聞論説兼編集委員）

テーマ：『敵基地攻撃と日米一体化～防衛費倍増は国民負担に～』

・第4回

期日：2024年3月23日 場所：オンライン

講演：金平茂紀氏（ジャーナリスト）

テーマ：『忘却に抗うメディアの役割ービキニ水爆被災70周年に寄せてー』

④ 広島・長崎平和関連行事への参画

【広島】2023年8月6日早朝、広島戦災供養会主催、広島県宗教連盟の奉仕による「原爆死没者慰霊行事」に、WCRP日本委員会からストップ！核依存タスクフォース運営委員の三宅善信理事（金光教春日丘教会長）、篠原祥哲事務局長が参列した。その後、広島市主催による「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参列した。

【長崎】2023年8月7日、長崎県宗教者懇話会の主催による「宗教者による世界平和を願う対話交流の集い」が、8日には第51回原爆殉難者慰霊祭が行われ、WCRP日本委員会から三鍋裕監事（日本聖公会主教）、ストップ！核依存タスクフォースメンバーの中西正史活動委員（寒川神社権禰宜）が参加した。内容は、機関誌「WCRP」9月号に掲載。

⑤ 平和首長会議との連携

核兵器廃絶を目指す平和首長会議との意見交換を行い、今後の協働を確認すると共に、財的支援を行った。

⑥ ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）との協働

G7広島サミットを前に世界の青年が核兵器廃への具体的行動を協議するための「広島G7ユースサミット」（ICAN主催）に対し、財的支援を行った。

⑦ ストップ！核依存タスクフォースの会合を5回開催し、事業についての協議を行った。

(2) 気候危機に向けた取り組み

気候危機タスクフォースを中心に地球温暖化対策や気候変動教育への取り組みを行った。

① WCRP いのちの森づくりプロジェクト

第8回 ACRP 大会（2014年、韓国・仁川開催）において、「一人が一本の木を植える」ことが提唱されたことを受け、地球温暖化対策の一環として、同プロジェクトを開始。埼玉県所沢市にある約1万平方メートルの土地に、埼玉県庁、所沢市、地権者で構成される「堀口天満天神社周辺緑地を守る会」の協力を得て、下草刈りや植樹などの里山再生活動を行ってきた。実践活動であるとともに、青少年への環境教育の場とすることを目的としている。2023年度も、事務局を中心に整備作業を行うとともに、次の行事を開催した。内容は、機関誌「WCRP」5・8・12月号に掲載。

- ・4月16日に「タケノコ掘り」を開催し約60人が参加した。
- ・7月14日には「堀口天満天神社周辺緑地を守る会」の地権者も参加し、「WCRP いのちの森づくり鎮守の社安全祈願祭」を執り行った。
- ・11月18日には「第4回植樹会」を開催し、来賓の山本悟司氏（埼玉県副知事）、柴山昌彦氏（元文部科学大臣）、岡田しずか氏（埼玉県議会副議長）、小野塚勝俊氏（所沢市長）と約40人の参加者により、コナラとヤマザクラの苗木12本を植えた。

② 感じる地球ワークショップ

期 日：2023年11月5日、11日

場 所：立正佼成会 普門エリア・団参会館（東京都杉並区）

概 要：

立正佼成会の有志職員主催の「子ども秋まつり」と青年ネットワークグループ主催の「いろとりどりサンガデザイン」にそれぞれブース出展した。世界の主要都市の様子を映し出すライブ映像、クジラや渡り鳥などの生き物が海中や大陸を横断していく様子、海面温度の上昇や津波の発生過程などが映し出されるデジタル地球儀「触れる地球」を活用した「感じる地球ワークショップ」やいのちの森で採取した植物の標本展示を行った。内容は、機関誌「WCRP」2024年2月号に掲載。

③ 気候危機タスクフォースの会合を3回開催し、事業についての協議を行った。

(3) 「和解のための教育」への取り組み

和解の教育タスクフォースを中心に和解をもたらす人づくりに向けた取り組みを行った。

① 「平和と和解のためのファシリテーター養成セミナー」及びフォローアップ

和解の教育タスクフォースは、身近な親子間などの関係から国際的なレベルまで、対立を乗り越え和解をもたらす人材を育成することを目的に、「平和と和解のためのファシリテーター養成セミナー」を開催している。2023年度は、第1期（2017～2018年）・第2期（2020～2021年）セミナー参加者を中心に平和構築に関心がある人々の交流を通してのネットワーク化を図るとともに、ファシリテーターとしての知見と能力をさらに高めていくためのフォローアップセミナーを行った。

- ・「戦争から和解と平和のプロセスへー私たちに何ができるのか」セミナー開催

期 日：2023年7月22日～23日

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

概要：

山本俊正タスクフォース責任者（元関西学院大学教授）、フランチェスカ・ボネリ氏（国連難民高等弁務官事務所モルドバ代表）、横山由利亜氏（日本YMCA同盟）、松井ケティ教授（清泉女子大学）、村上泰教氏（石鎚山真言宗総本山極楽寺教学部長）、永尾教昭氏（天理大学前学長）、天理大学のウクライナ人留学生を講師に招き、ウクライナ避難者の現状から戦争の現実や支援の課題、対話の基本姿勢や傾聴のスキルなどを学ぶとともに、和解と平和のために私たちにできることについて考えた。内容は、機関誌「WCRP」8月号に掲載。

- ② 和解の教育タスクフォース会合を4回開催し、事業に関する協議を行った。

(4) 人身取引防止への取り組み

国内外で人身取引の問題に取り組む団体と連携し、啓発・提言を中心に活動した。

- ① 人身取引防止タスクフォース主催「宗教者としてのいのちの尊厳について考える～国際人権とSDGsの視点から人身取引防止を目指して～」

期 日：2023年7月1日

場 所：オンライン

概要：

カトリック大阪教区社会活動センター・シナピスのビスカルド篤子氏、救世軍人身取引対策室長の石川節子氏、在日ベトナム仏教信者会代表理事で大恩寺ベトナム寺院のティック・タム・チー住職、篠原祥哲 WCRP 日本委員会事務局長から宗教者による人身取引防止への取り組みと今後の展望について学んだ。内容は、機関誌「WCRP」8月号に掲載。

- ② 現地学習会ならびに人身取引防止に向けた諸宗教の祈り

期 日：2024年3月5日

場 所：大恩寺ベトナム寺院（埼玉県本庄市）

概要：

ティック・タム・チー師が住職を務める大恩寺ベトナム寺院を訪問。不当解雇やトラブル等で行き場がない在日ベトナム人や技能実習生のかけこみ寺となっている大恩寺を見学し、現状を学ぶとともに、タム・チー師との対話、技能実習生との交流や人身取引によって命を落とされた方への慰霊、人身取引防止のための祈りを捧げた。内容は、機関誌「WCRP」5月号に掲載。

- ③ 「人身取引反対世界デー」に向けての動画配信

7月30日の人身取引反対世界デーによせて7月1日に開催された「宗教者としてのいのちの尊厳について考える～国際人権とSDGsの視点から人身取引防止を目指して～」学習会ダイジェストを公開した。

- ④ 人身売買禁止ネットワーク（JNATIP）への参画

人身売買禁止に取り組むNGOや研究者、法律家によるネットワークに加盟し、2ヵ月に1回程度、情報交換のため会合に参加した。

⑤ 人身取引防止タスクフォース会合を3回開催し、事業に関する協議を行った。

#### (5) 「難民問題」への取り組み

##### ① シリア難民留学生の受け入れ

2017年より、認定NPO法人難民支援協会（2021年7月より一般財団法人パスウェイズ・ジャパンが事業継承）と共にシリア難民を日本語学校の留学生として受け入れる共同事業を実施している。2020年度に採用し、コロナ感染拡大の影響を受けたため、1年遅れで2022年3月に来日したシリア難民留学生5期生が、2024年3月に日本語学校卒業を迎える。パスウェイズ・ジャパンと共同事業として採用した学生への最後の卒業祝賀会を2024年3月28日東京都杉並区にて開催し、シリア難民留学生として来日した1期生～5期生をはじめ、事業関連団体や関係者が出席した。

##### ② アフガニスタン難民受入

2021年8月にアフガニスタンでタリバン政権が樹立されて以降、アフガニスタン国内で身の危険に晒され、諸外国へと一時避難を求める人々がいる。WCRP日本委員会は、WCRP関係者と日本のNGOからの緊急要請を受けて、同年11月上旬よりアフガニスタンからの避難民家族を日本で受け入れており、2023年度も継続して支援を行った。

##### ③ J-FUN（日本UNHCR・NGO評議会）への参画

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）や難民問題について活動するNGOと2カ月に1回程度、情報交換のため会合に参加した。

##### ④ 第2回グローバル難民フォーラム（GRF）への参画

2019年にUNHCRが立ち上げた難民支援に関する国際会議「グローバル難民フォーラム（GRF）」の第2回会合が12月13日から15日までスイス・ジュネーブで開催された。WCRP日本委員会は、この第2回GRFに向けて、J-FUNに参加するさまざまな団体と共に勉強会や情報交換を行ってきた。また、難民受け入れに関するプレッジを提出し、その概要はUNHCRウェブサイトにも掲載された。内容は、機関誌「WCRP」12月号に掲載。

## 5. 平和のための調査・研究

当団体に専門の研究機関として「平和研究所」を設け、平和に資する調査・研究を継続している。2023年度は、以下の通り9回の研究会を開催した。

また、研究会の内容は、機関誌「WCRP」に掲載し、広く情報提供すると共に、書籍を毎年約450部発行し、宗教関係者・大学・研究所・図書館並びにマスコミ関係者に約350部を無料で配布している。報告書に関する詳細は、以下の「8. 広報活動」にある通り。

#### (1) 研究会

##### ① 第1回研究会

期 日：2023年4月25日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）・オンライン

発表者：篠原祥哲氏（WCRP日本委員会事務局長）

テーマ：「WCRP と平和研究所」

内容は、機関誌「WCRP」5月号に掲載。

② 第2回研究会

期 日：2023年5月23日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）・オンライン

発表者：金子 昭氏（平和研究所所員、天理大学おやさと研究所教授）

テーマ：「人間性とその回復に関わる問題領域の再検討」

内容は、機関誌「WCRP」7月号に掲載。

③ 第3回研究会

期 日：2023年6月27日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）・オンライン

発表者：森 伸生氏（平和研究所所員、拓殖大学イスラーム研究所所長）

テーマ：「イスラームの食規範とハラール認証状況」

内容は、機関誌「WCRP」7月号に掲載。

④ 第4回研究会（外部招聘講師）

期 日：2023年7月24日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）・オンライン

発表者：木村護郎クリストフ氏（上智大学教授）

テーマ：「平和のための〈対話〉における宗教の役割～ドイツ・ポーランドの和解への道から～」

内容は、機関誌「WCRP」8月号に掲載。

⑤ 第5回研究会（外部招聘講師）

期 日：2023年9月19日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）・オンライン

発表者：田辺寿一郎氏（早稲田大学留学センター講師）

テーマ：「ポストリベラルな平和論の考察：宗教的平和論によるリベラルな平和論の批判的考察」

内容は、機関誌「WCRP」10月号に掲載。

⑥ 第6回研究会

期 日：2023年10月10日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）・オンライン

発表者：竹村牧男氏（平和研究所所長、東洋大学名誉教授）

テーマ：「東洋的靈性と平和への一視点——鈴木大拙の思想から」

内容は、機関誌「WCRP」11月号に掲載。

⑦ 第7回研究会

期 日：2023年11月28日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）・オンライン

発表者：齋藤忠夫氏（平和研究所所員、東北大学名誉教授）  
テーマ：「未来の食糧危機を救い、世界の飢餓を救うフードテック」  
内容は、機関誌「WCRP」12月号に掲載。

⑧ 第8回研究会

期 日：2024年2月26日  
場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）・オンライン  
発表者：ホアン・マシア氏（平和研究所所員、元上智大学教授）  
テーマ：「対決（Discordia）から調和（Concordia）へ～自己脱出（salir de sí）から  
自己発見（encontrarse）と自己超越（trascenderse）へ」  
内容は、機関誌「WCRP」2024年3月号に掲載。

⑨ 第9回研究会

期 日：2024年3月29日  
場 所：静岡県熱海市  
発表者：藤本頼生氏（平和研究所所員、國學院大學教授）  
テーマ：「鏡と正直—神道の徳目と言葉にみる人間性の教育」

発表者：西原廉太氏（平和研究所副所長、立教大学総長）  
テーマ：「聖書における『天幕』理解と「人間性の回復」

期 日：2024年3月30日  
発表者：松井ケティ氏（平和研究所所員、清泉女子大学教授）  
テーマ：「諸宗教における人間性の教育を語る—他者の痛みへの共感を育むための3つ  
の役割」  
内容は、機関誌「WCRP」2024年5月号に掲載。

(2) 所員会議を10回行い、研究事業や運営についての協議を行った。

## 6. 女性による平和活動

女性の特性を活かした平和活動を推進するための「女性部会」を設け、不特定多数の人々を対象として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会や、平和教育・倫理教育に資するため、青少年のいのちに関する意識や考え方についての実態を研鑽している。

(1) 宗教別学習会

期 日：2023年4月13日～14日  
場 所：円応教本部（兵庫県丹波市）  
概 要：

女性部会では毎年、加盟教団及び諸宗教の施設を訪問し、その歴史や教えを学ぶことを通して、相互理解を深め、諸宗教対話やいのちの尊厳についての取り組みを深めることを目的に同学習会を実施している。円応教の本部で開催された今回の宗教別学習会には9人の女性部会委員が参加、円応教の歴史や教え、由来について学んだ。現地に足を運んでの開催は約3年ぶりとなった。内容は、機関誌「WCRP」5月号に掲載。

(2) 難民受け入れに関する女性部会内学習会

期 日：2023年7月20日、9月28日

場 所：オンライン

概 要：

女性部会は本年、「Action with All Beings～日本に避難を余儀なくされた女性の声なき声に寄り添う～」をテーマに活動を進めている。日本に避難する難民への具体的な支援を検討する上で、まずは世界と日本の難民受け入れの現状と課題を理解するために、NPO 法人難民支援協会支援事業部マネージャーの新島彩子氏を講師に2回の学習会を開催した。内容は、機関誌「WCRP」9月号に掲載。

(3) 「いのちに関する学習会」の開催

期 日：2023年10月9日

場 所：オンライン

概 要：

女性部会では、宗教を持つ諸宗教の女性の立場から、いのちの問題を考えるために、毎年「いのちに関する学習会」を開催し、教育・貧困・医療等さまざまな視点から学びを深めている。2023年度は『日本に避難を余儀なくされた方々の声なき声に寄り添うために～難民支援の現場から～』をテーマに開催、約50人が参加し、大野俊教授（清泉女子大学、同校人文科学研究所所長）が、「日本における難民受け入れの現状と課題—いま何が問題なのか—」をテーマに発題を行った。さらに、質疑応答やグループワークを通して、感想を共有し学びを深めた。内容は、機関誌「WCRP」11月号に掲載。

(4) アジア太平洋女性信仰者ネットワーク（APWoFN）バリ会合への参画

期 日：2023年11月20日～22日

場 所：インドネシア・バリ島

概 要：

第9回ACRP大会で選出されたAPWoFN委員ら16人が参加し、2024年度にAPWoFNとして取り組むフラッグシップ・プロジェクトの計画や予算等について話し合われた。女性部会からは河田尚子副部会長（アル・アマーナ代表）がAPWoFN事務局長として参加した。内容は、機関誌「WCRP」12月号に掲載。

(5) 女性部会委員会を5回開催し、事業や運営についての協議を行った。

## 7. 青年による平和活動

青年の特性を活かした平和活動を推進するための「青年部会」を設け、宗教伝統や文化をより理解し、相互交流を図るためのプログラムを実施している。

(1) 青年部会発足50周年記念行事

期 日：2023年5月13日

場 所：蓮華王院三十三間堂（第1部）、立正佼成会京都教会（第2・3部）

概 要：

第1部の「祈りの集い」は、杉谷義恭幹事長（天台宗国際平和宗教協力協会専門委員）

の導師による読経供養、代表者による献花、参加者全員による黙祷により世界平和と人類和合を祈念した。第2部の「記念式典」は、杉谷幹事長の主催者あいさつ、戸松義晴理事長、青年部会第5代幹事長の三宅光雄評議員（金光教泉尾教会教会長）、日本ユニセフ協会の早水研専務理事、アジア太平洋諸宗教青年ネットワーク（APIYN）のレンツ・アルガオ議長が祝辞を述べた。第3部の「シンポジウム」は、第7代幹事長を務めた小堀光實参与（天台宗三千院門跡門主）が登壇、『本音を語れる出会いは自他を育てる』をテーマに基調講演を行い、その後、参加者によるパネルトークを行った。内容は、機関誌「WCRP」6月号に掲載。

## (2) 日韓青年リーダー交流会

期 日：2023年12月20日～22日

場 所：韓国・ソウル

概 要：

日韓青年リーダー交流会に青年部会幹事・スタッフ6人が参加した。20日は、キム・テソン KCRP 事務総長からの歓迎あいさつに続き、KCRP 青年委員会のイ・ジェソン委員長、日本委員会青年部会の大西英玄副幹事長があいさつし、今後の日韓青年交流の在り方について議論した。21日は、梨泰院を訪問し、2022年10月29日に発生した雑踏事故の犠牲者に慰霊の祈りを捧げた。また、成均館を訪問し、チェ・ゾンス KCRP 代表会長（成均館館長）と懇談した。日本の青年リーダーたちは22日、景福宮や歴史民俗博物館を訪問し理解を深めた。内容は、機関誌「WCRP」2024年2月号に掲載。

## (3) アジア諸宗教青年ピースキャンプ 2023

期 日：2024年2月20～23日

場 所：韓国・ソウル

概 要：

RFPアジア（ACRP）、ACRP ソウル平和教育センター（SPEC）、アジア&太平洋諸宗教青年ネットワーク（APIYN）、韓国宗教人平和会議（KCRP）共催で『一致、平和、慈悲心推進者としてのアジアの青年たち』をテーマに開催された。アジア太平洋地域11か国から約30人の青年が集い、青年部会からは齋藤佑助事務局長（立正佼成会習学部青年ネットワークグループ）ら2人が参加した。内容は、機関誌「WCRP」2024年4月号に掲載。

(4) 青年部会幹事会を4回実施し、事業や運営に関する協議を行った。

## 8. 広報活動

当団体の事業等を広く一般に周知し、国内外の宗教状況、諸宗教の対話、国際社会が直面する平和を脅かす諸課題に関する情報などを広く一般に提供するため、以下の広報活動を行った。

### (1) マスコミ関係者との情報交換

2023年度は、2つのプレスリリースを発行し、マスコミ関係者等に送付したほか、ホームページに掲載した。また、12月19日に東京で「第2回東京平和円卓会議」開催についての記者懇談会を行った。さらに、2024年2月15日に東京で第2回東京平和円卓会議の開催に向けた記者会見を行った。

## (2) ホームページ、SNS

ホームページを通して、事業報告や告知を行った。随時更新するとともに、広く一般に学習会等への参加を呼びかけ、その申し込みの受付、市民からの問い合わせに対応した。また、YouTube チャンネルや Instagram、Facebook、X (旧 Twitter) を通して、広く一般に情報発信を行った。

## (3) 出版

### ① 機関誌「WCRP」

毎月 2,250 部発行し、会員のみならず、宗教関係者・大学・研究機関・図書館・国連や NGO 関係者並びにマスコミ関係者等、約 1,300 部を無料配布した。また、ホームページ等を通じて広報し、申込者に対し年間購読料 1,000 円で送付した。

### ② 2022 年度活動報告

2023 年 12 月に 2022 年度活動報告を 1,400 部発行し、WCRP 日本委員会関係者・会員のみならず、NGO/NPO、国連機関、図書館、マスコミ関係者等に約 1,000 部を無料配布した。また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に無料で提供した。

### ③ 平和のための宗教 対話と協力 16

平和研究所所員による研究報告を掲載。450 部発行し、WCRP 日本委員会役員のみならず、図書館、マスコミ関係者等に 350 部を無料配布している。また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に頒価 (800 円) で提供する。

## II. 法人運営部門

### 1. 法務に関する業務

- (1) 内閣府への報告等及び登記事務他
- (2) 法人に関する業務

### 2. 会議に関する業務

#### (1) 評議員会

##### ①第 26 回評議員会

期日：2023 年 6 月 23 日

場所：華嚴宗大本山東大寺総合文化センター（奈良県奈良市）／オンライン

##### ②第 27 回評議員会

期日：2024 年 1 月 25 日

場所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）／オンライン

#### (2) 理事会

##### ①第 44 回理事会

期日：2023 年 6 月 2 日

場所：東京カテドラル関口会館（東京都文京区）／オンライン

②第 45 回理事会

期日：2023 年 9 月 13 日

場所：神戸ムスリムモスク（兵庫県神戸市）／オンライン

③第 46 回理事会

期日：2024 年 1 月 25 日

場所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）／オンライン

④第 47 回理事会

期日：2024 年 3 月 14 日

場所：浄土宗宗務庁（京都府京都市）／オンライン

(3) その他諸会議の運営及び記録他

①総合企画委員会 5 回開催

**3. 監査に関する業務**

2023 年 5 月 18 日に実施

**4. 財務に関する業務**

- (1) 資産運用及び管理に関する業務
- (2) 経理、会計、記帳計算に関する業務

**5. 文書管理に関する業務**

各種文書の作成、提出、管理及び保管他

**6. 人事及び福利厚生に関する業務**

勤怠管理、安全衛生及び福利厚生他

**7. 庶務に関する業務**

- (1) 什器備品、印刷物、公印等の管理他
- (2) その他どの部門にも属さない事項の処理他

以 上

2024 年 5 月 22 日

公益財団法人 世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会